

数学科（数学A）学習指導案

日時	令和6年6月6日（木）2時限		学年・組	1年2組	指導者	松木 優
教室	232 教室	使用教科書	新編数学A（数研出版）			
単元	順列		内容のまとめ	場合の数と確率		
単元の目標	1 順列の考え方を具体的な事象の考察を通して理解する。 2 順列を利用して、いろいろな場合の数を求められるようになる。 3 円順列や重複順列について理解を深め、それらを活用できるようになる。		指導計画	1 場合の要素の個数……………2時間 2 場合の数……………3時間 3 順列……………3時間 （本時はその2時間目） 4 組合せ……………4時間 5 事象と確率……………2時間 6 確率の基本性質……………3時間 7 独立な試行と確率……………3時間 8 条件付き確率……………3時間 9 期待値……………2時間		
	単元の評価規準	知識・技能		順列の総数、階乗を記号で表し、それらを活用できる。順列、円順列、重複順列の公式を理解し、利用することができる。順列、円順列に条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。		
	思考・判断・表現		順列の考え方を利用して、日常的な事柄について表現することができる。条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理をすることができる。			
	主体的に学習に取り組む態度		既知である積の法則から順列の総数を求める公式を導こうとする。順列の公式やその考え方に興味関心をもち、日常的な事柄や問題の解決に活用しようとする。			

本時の指導

主題（教材）	順列の総数・順列の考え方の利用
前時の課題	積の法則と順列の考え方について復習し、その内容を確認しておく。
本時の目標	順列の考え方を利用していろいろな場合の数を求める。
評価規準	順列の考えを理解し、日常的な事柄について表現する。（思考・判断・表現）

指導過程	学習活動		時間	指導上の留意事項	評価方法、資料等
	導入	前時の内容を復習する。		3 (分)	・順列や積の法則の使い方を理解させる。
展開	1	応用例題4の(1)について考える。	10	・並べ方の具体例を考え、数学的な考えを理解させる。	・プロジェクタ  【評価方法】 ○ワークシートの記述 内容の確認
	2	練習問題18(1)を解く。	6	・グループワークを通して、数学的に思考し表現する能力を身に付けさせる。	
	3	応用例題4の(2)について考える。	7	・条件付き順列の「条件」の数学的な表現方法を理解させる。	
	4	練習問題18(2)を解く。	6	・条件付き順列の問題に慣れさせる。	
	5	ワークシートの問題（応用例題4の(1)、(2)の融合問題）を解く。	15	・条件付き順列の考え方を組み合わせさせた問題を解かせる。	
整理	本時の学習の振り返りと次時の予告を行う。		3	・次回授業への関連性を説明する。	

備考	生徒数 40名
----	---------

